

# IEC 62209-1MT1状況

作業班 大西 輝夫, 浜田 リラ

平成22年7月28日

# IEC 62209-1MT1

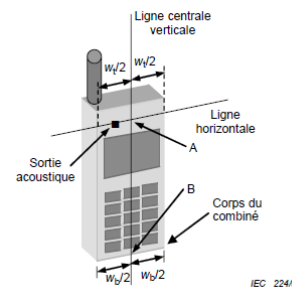
- IEC 62209-1;2005 (人体側頭部使用時のSAR測定法)のメンテナンス作業を担当
- 主な目的
  - 周波数範囲の拡張: 上限を 3 GHz → 6 GHz
  - 測定パラメータ・複数周波数同時送信などについて IEC 62209-2と整合
  - IEEE 1528との整合
  - 高速なSAR測定方法、試験数削減方法の詳細な検討
  - 手の影響検討
- コンビナー      フィンランド
- エキスパート派遣国
  - 英, 米, 仏, 伊, 加, 豪, 韓, 独, フィンランド, スイス, 日, (中)

# IEC 62209-1・2 概要

	IEC 62209-1	IEC 62209-2
適用範囲	側頭部で使用される無線機器	人体に対し20 cm以内に近接して使用される無線機器
対象部位	側頭部	側頭部を除く、頭部・胴体・四肢
想定対象機器	主に携帯電話 	側頭部以外の携帯電話・無線通信機器 
周波数	300 MHz – 3 GHz → <b>6 GHz</b>	30 MHz – 6 GHz
ファントム形状	頭部を模擬 	平面形状 
設置方法	頬の位置, 傾斜の位置	所定の使用状態を模擬
その他		基本的な部分は62209-1と同じ

# トピック(手の影響)

- 62209-1;2005規格策定時と比較して、アンテナ搭載状況が変化
  - 当時は、ホイップアンテナが主流。手の影響はほとんどなかった
  - 最近ではアンテナ内蔵がほとんど。手の有無によりSARが変化
- MT1における検討内容
  - 実機を用いた実測
  - メカニズムの解明



ホイップアンテナの例  
(IEC 62209-1より引用)



MT1資料より引用

# トピック2：SAR試験の高速化

- 62209-1;2005規格策定時と比較して、周波数・変調方式が多様化
  - 当時は、単一周波数・単一変調信号が主流。一度の測定でよかった
  - 最近では多周波数対応機がほとんど。Bluetoothなど複数の変調信号の同時送信もあり、すべての組み合わせの測定は時間がかかる
- MT1における検討内容
  - 高速SAR測定アルゴリズム・装置の提案
  - 試験周波数削減などの試験数減方法の提案

# スケジュール

- MT1会合の状況
  - 2008年5月 上海にてキックオフ
  - 年4回会合 + 電話会議
- 今後の予定
  - 2010年9月 チューリッヒ会合にてCDVドラフト策定
  - 2010年末 CDV発行予定